訂正仕訳

【重要性：Ａ】

ＰＯＩＮＴ！

①　**訂正仕訳の内容を理解しよう！**

②　**仕訳の導出方法をマスターしよう！**

取引時に仕訳を行ったが、勘定科目を間違えたり、金額を間違えたりする場合があります。その場合、正しい処理になるように**訂正仕訳**（ていせいしわけ）を行う必要があります。

処理としては、まず、①誤った仕訳を取り消すために、誤った仕訳の貸借反対の仕訳を考えます。これを逆仕訳（ぎゃくしわけ）（または反対仕訳（はんたいしわけ））といいます。次に、②正しい仕訳を考えます。この①と②を合算した仕訳が訂正仕訳となります。

（１）勘定科目の間違い

例題　売掛金1,000円の回収として当座預金に振り込まれたが、間違えて売上勘定の貸方に記入していた。

実際に以下の仕訳を行っています。

当　座　預　金　1,000 /　売　上　1,000

訂正仕訳を行うには、まず、①誤った仕訳の逆仕訳を考えます。

売　上　1,000 /　当　座　預　金　1,000

次に、②正しい仕訳を行います。

当　座　預　金　1,000 /　売　掛　金　1,000

①と②を合計した仕訳が、訂正仕訳となります。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
売　上	**1,000**	**売　掛　金**	**1,000**

実際に行った仕訳の借方「当座預金」は正しく、貸方の「売上」が間違いですので、それを正しく「売掛金」に訂正しています。

（２）金額の間違い

例題　売掛金1,000円の回収として当座預金に振り込まれたが、間違えて100円として仕訳を行っていた。

実際に以下の仕訳を行っています。

当　座　預　金　　100 / 売　掛　金　　100

訂正仕訳を行うには、まず、①誤った仕訳の逆仕訳を考えます。

売　掛　金　　100 / 当　座　預　金　　100

次に、②正しい仕訳を行います。

当　座　預　金　　1,000 / 売　掛　金　　1,000

①と②を合計した仕訳が、訂正仕訳となります。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
当　座　預　金	**900**	**売　掛　金**	**900**

実際に行った仕訳では、借方の「当座預金」が900円少なく、貸方の「売掛金」が900円少ないので、それを正しく訂正しています。

（３）未処理

本来行うべき仕訳を行っていなかった場合があります。それを**未処理**（みしょり）といいます。未処理が判明した場合には、本来行うべき仕訳を行って下さい。

例題　売掛金1,000円の回収として当座預金に振り込まれたが、未処理であった。

この取引に関して仕訳が行われていませんので、本来行うべき仕訳を行います。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
当　座　預　金	**1,000**	**売　掛　金**	**1,000**

貯蔵品

【重要性：Ｂ】

ＰＯＩＮＴ！

①　貯蔵品で処理されるものを覚えよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「貯蔵品」勘定（資産）

「租税公課」勘定（費用）・「通信費」勘定（費用）

郵便切手や収入印紙など換金性の高い資産は、購入時に費用勘定（郵便切手は「通信費」、収入印紙は「租税公課」）で処理し、決算において未使用分を費用勘定から「**貯蔵品**」勘定（**資産**）へ振り替えます。

また、次期期首において、期中は費用勘定で処理するために、「貯蔵品」勘定（資産）の残高を、各費用勘定に振り替えます。この仕訳は前期の決算整理仕訳の反対仕訳（逆仕訳）となりますので、**再振替仕訳**（さいふりかえしわけ）といいます。

例題　**①　収入印紙1,000円を現金で購入した。**
②　決算において、未使用の収入印紙が200円あった。
③　期首において、未使用の収入印紙200円を適切な費用勘定へ再振替仕訳を行った。

①　購入時

借方科目	金額	貸方科目	金額
租税公課	**1,000**	**現金**	**1,000**

②　決算整理

借方科目	金額	貸方科目	金額
貯蔵品	**200**	**租税公課**	**200**

この結果、租税公課は収入印紙の使用分800円となります。

③　次期期首（再振替仕訳）

借方科目	金額	貸方科目	金額
租税公課	**200**	**貯蔵品**	**200**

例題　①　**決算において、未使用の切手が300円あった。**
②　**次期期首において、前期末に振り替えた勘定から元の勘定へ再振替仕訳を行う。**

①　決算整理

借方科目	金額	貸方科目	金額
貯蔵品	**300**	**通信費**	**300**

②　次期期首（再振替仕訳）

借方科目	金額	貸方科目	金額
通信費	**300**	**貯蔵品**	**300**

その他の取引② 問題

問題1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　銀行から100,000円を借り入れ、当座預金に預け入れた。

②　借入金100,000円にかかる半年分の利息（年利率２%）を当座により支払った。

③　借入金（元本均等返済）の今月返済分の元本200,000円と利息（各自計算）が普通預金口座から引き落とされた。利息の引落額は未返済の元本800,000円に年利率3.65%を適用し、30日分の日割計算（1年を365日とする）した額である。

④　取引先へ50,000円を現金にて貸し付けた。

⑤　取引先から貸付金の元本50,000円の返済と貸付期間1年分の利息（年利率1%）を現金にて受け取った。

⑥　取引先から約束手形80,000円を受け取ったが、これは現金の貸し付けに関して受け取ったものである。

⑦　取引先から現金30,000円を借り入れ、借用証書の代わりに約束手形を振り出した。

⑧　商品45,000円を掛けで販売したが、誤って54,000円と記入していたので、正しい金額に修正する。

⑨　商品77,000円を仕入れ、代金のうち23,000円は小切手を振り出して支払い、残額は掛けとしたが、本日、注文時に手付金として35,000円を支払っていたことが判明したため、訂正を行う。なお、掛代金についてまだ、決済は行われていない。

⑩　従業員に対する給料90,000円から、従業員に対する貸付金9,000円およびその利息500円を差し引き、手取額を現金で支給した。

⑪　期末において、未使用の収入印紙が7,000円あった。

その他の取引②　答案用紙

問題1

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				
⑦				
⑧				
⑨				
⑩				
⑪				

その他の取引② 解答解説

問題1 解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	当座預金	100,000	借入金	100,000
②	支払利息	1,000	当座預金	1,000
③	借入金 支払利息	200,000 2,400	普通預金	202,400
④	貸付金	50,000	現金	50,000
⑤	現金	50,500	貸付金 受取利息	50,000 500
⑥	手形貸付金	80,000	現金	80,000
⑦	現金	30,000	手形借入金	30,000
⑧	売上	9,000	売掛金	9,000
⑨	買掛金	35,000	前払金	35,000
⑩	給料	90,000	貸付金 受取利息 現金	9,000 500 80,500
⑪	貯蔵品	7,000	租税公課	7,000

問題1　**解説**

①　銀行からお金を借り入れた場合、「借入金」勘定（負債）で処理します。

②　利息の支払いは「支払利息」勘定（費用）で処理します。

100,000×２%÷12ヶ月×6ヶ月＝1,000

③　元本の返済は「借入金」勘定（負債）の減少として処理し、利息の支払いは「支払利息」勘定（費用）で処理します。なお、元本均等返済とは、元本を均等額で分割で返済することです。この場合、利息の計算の基礎となる元本額は、今月の返済額でなく、未返済元本となりますので、注意して下さい。

未返済元本800,000×3.65%÷365日×30日＝2,400

④　取引先への貸し付けは、「貸付金」勘定（資産）で処理します。

⑤　貸付金の元本の返済は「貸付金」勘定（資産）の減少として処理します。また、利息の受け取りは「受取利息」勘定（収益）で処理します。

50,000×1%＝500

⑥　手形による貸し付けは、「手形貸付金」勘定（資産）で処理します。

⑦　手形による借入は、「手形借入金」勘定（負債）で処理します。

⑧　実際に行われた仕訳は以下です。

売掛金	54,000	売上	54,000

あるべき仕訳は以下です。

売掛金	45,000	売上	45,000

したがって、訂正仕訳は以下となります。

売上	9,000	売掛金	9,000

⑨　実際に行われた仕訳は以下です。

仕入	77,000	当座資産	23,000
		買掛金	54,000

あるべき仕訳は以下です。

仕入	77,000	当座資産	23,000
		前払金	35,000
		買掛金	19,000

したがって、訂正仕訳は以下となります。

買掛金	35,000	前払金	35,000

⑩　従業員への貸付金の回収として「貸付金」勘定（資産）の減少として処理します。また、貸付金の利息を受け取ったので、「受取利息」勘定（収益）として処理します。

⑪　収入印紙は期中は「租税公課」勘定（費用）で処理していますが、未使用分があった場合、決算で「貯蔵品」勘定（資産）に振り替えます。